

私の生きる活力

富岡市立富岡中学校

二年 渡辺 愛深

「何それ、意味わかんない。」

私が友達に、自分の趣味について話したときに、返された一言。自分にとって大切なものを、あっさりとは否定されてしまった。何だか悲しく、そして悔しくなった。

私は音楽を聴くことが趣味だ。中でもヴィジュアル系という、ロックの一種が好きで、毎日聴いている。聴くようになったのは、小学一年のときからだ。テレビに出ていたあるバンドを見たとき、「何て美しい人たちなんだ」と思い、魅了された。彼らを知ってから、もうそれなしでは生きていけないくらい、私の中では重要な存在になった。自分の魅力を最大限表現している姿に、活力をも

らった。

ヴィジュアル系が根源、というわけではないが、それもあってか、私はよく「普通じゃない」と、言われてしまう。友達と話が合わないことも多々ある。興味もないのにあるふりをしたり、合わせたりするのも、苦手。決まり事の多い中で生活している毎日を、窮屈に感じてしまっている。

また、落ち着けるはずの家でも、居場所が感じられないことがある。

先日も、こんなことがあった。私がいつもの登校時刻に家を出ようとしたとき、理科の教科書を忘れたことに気が付いたのだ。探してみても見つからない。母に、

「他は探した？」「ここは？」

と、言われ、見てみると、沢山の資料やらなんやらが、山積みになっていたのだ。私は、

「こんな汚い家だから、物がなくなるんだよ！」と、八つ当たりしてしまったのだ。母には当然、「ろくに探もしないのに、人のせいにしてるん

じゃない。「いつも自分勝手に！」

と、こつぴどく叱られてしまった。父にも、何
度も叱られた。

夜になっても叱られ続け、私は当てつけの気持
ちから、

「そんなに迷惑なら、死のうか？」

と、できもしないことを言ってしまったのだ。そ
れを言い終えた途端、父にビンタされそうになっ
た。その時、私は

「居ても居なくても、迷惑なんだ。」

と思い、家でも居場所を失ってしまったのだ。

自分が悪いとわかっていても、言ってしまう、
してしまふ。時々自分の気持ちをもてあまし、暗
澹たる気持ちになる。

そんな中、私に「がんばろう」「明日も生きよ
う」と思わせてくれ、私の支えになってくれるの
は、「好きな音楽」の存在だった。彼らはいつも、
私が辛いと思ったときに、助けてくれる存在だ。
歌詞やメロディにとっても勇気づけられ、励まされ

てきた。

私は思う。自分の趣味、好きなことがあるのは、
とても力になるのだと。誰だって、打ち込めるも
のや、自分を生かす場所があると、楽しかったり
励まされたりするものだろう。自分のいるべき場
所で、いつもうまく過ごせるとは限らない。そん
なとき、他に自分を解放させられる場所があれば、
穏やかな気持ちになれる。そしてまた、自分の居
るべき場所で、がんばっていかうと思えるのだ。

私は、前向きに生きるための活力でもある彼ら
を、これからもずっと、好きであり続けたい。そ
して、この場所ですっかり生きていかうと思う。